

山鼻福まちだより

第37号

平成30年3月1日

編集者 情報部長

永喜多 宗雄

福祉の考え方

「福祉とは何でしょうか？」

山鼻地区社会福祉協議会 会長 阿部 貞夫

福祉という言葉が巷に氾濫しています。「福祉国家」とか「福祉社会」とか「福祉のまちづくり」とかよくいわれます。

誰も、漠然と「人にやさしい社会、ひとの面倒をみてあげる社会、困った人がいたら助けてあげる社会・・・」が社会福祉、福祉のまち、なんだろうと思っています。確かにそれは、間違っはけません。

「福祉」を辞典で調べると、福も祉も「幸福、幸せ」を意味することがわかります。

そこで、社会福祉も福祉のまちも、そこに住む人々が幸福で幸せになる「社会」であり、「まち」なんだとも思います。福祉の概念はかつては自分の福祉だったと思われます。

自分が、家族が幸せになればそれでよいという、いわば「個人福祉」的発想が人々の考えの根底にあったのは当然なことです。昔の「江戸の長屋文化」は、まちそのものが「福まち」だったとよくいわれます。自分の幸せもさることながら、やはり隣のうちも、向かいのうちも、そして、長屋全体も大家さんを中心にして皆で楽しく、幸せになろうよ、という考え方に進化してきたものと思われます。まさに社会福祉的变化です。かつては、福祉という言葉すらない時代でも、今流の福祉の概念は、人々の心の中にはあったのでしょ。

時代は変わり、複雑な現代社会のなかで、何故、福祉が強調されるようになったのか、それは、福祉の原点である「人にやさしい社会」、「人の面倒をみてあげる社会」、「困った人を助ける社会」ではなくなってきたからだといわれます。人より自分が大切なのは当たりまえです。自分の幸せと同時に、他人の幸せも考えられる社会、それが福祉の根本です。

「障害のある人は特別な人、かわいそう、だから手伝えばいい」から、「わたしたちと変わらないこともある、社会で一緒に生活し生きている」という見方が大切だといわれています。

「福祉」とは、「ふだんの、くらしの、しあわせ。これをみんなで一緒につくっていくこと」だともいわれます。(市社協)

自分も、しあわせになりたいから、あなたもしあわせに、と思える地域でありたいものです。それが、「福まち」の基本ではないかと思っています。

「福まち」の行事を紹介します。

「福祉のまち推進事業」を省略して、通称「福まち」と呼んでいます。

福まちでは、町内会、福祉推進員、民生委員・児童委員及び各関係機関と協力して、



見守り・安否確認、交流活動、研修活動などを行っています。
今回は、12月以降に開催された行事をご紹介します。

●町内会役員研修会（平成29年12月7日）

弁護士法人札幌・石川法律事務所の石川和弘弁護士を講師にお招きし、「個人情報保護法を理解しよう！」というテーマで研修が行われました。

これは平成29年の法改正により、町内会も同法適用の対象となったことから、地区の町内会役員が福祉活動を行うにあたって、法の趣旨や留意すべき事項などについて知識を深めるために実施したものです。

各役員は、改正点のポイントや実例など、講師の話を熱心に聴いていました。



●中央区全体研修会（平成29年12月8日） ※中央区社会福祉協議会主催事業

高齢化等が進み、何らかの支援を必要とする方々も増加しています。このような中、地域を支える柱として見守り・訪問など住民相互の助け合いが広がりを見せています。

研修では、中央区社会福祉協議会の辻事務局次長から「地区福まちにおけるコーディネート機能の強化に向けて」と題した講義がありました。

その後、山鼻第11町内会の社会福祉部長 森久保さんらによるパネルディスカッションとなり、「単位町内会が福まちに求める役割について」と題する「さろんほのか」の開始事例の発表がありました。

参加者にとっては、活動を進めていくうえでの体制づくりやコーディネートとしての視点など、具体的な事例を聴くことができ、とても有意義な研修となりました。



**第11町内会では「東本願寺山鼻支院」等で65歳以上の方を対象に「さろんほのか」を毎月開催！毎回、楽しいメニューで実施されています。
楽しく「集まれる場所」ですので、ご興味のあるかたは、ぜひ参加ください！**

●山鼻福まち 健康講話（平成30年1月30日）

1月30日（火）、山鼻会館で札幌厚生病院副院長の高橋博之先生を講師にお迎えして、健康講話会が行われました。

講話のテーマは「加齢に伴い、気をつけたい皮膚疾患～肌を健やかに保つために～」というもの。加齢とともに起きる皮膚の変化や皮膚疾患等について講話があり、「変化に気付いたら、まず受診を」との先生のお話を、参加者は真剣に聴いていました。

また講話の後、希望者に「肌水分チェック」「血管年齢測定」が行われ、それぞれの自分の状況を確認し、今後の肌のケアに役立てようとしていました。



一般財団法人札幌信用金庫社会福祉基金 様から

助成金を御贈呈いただきました！

平成29年12月26日（火）、一般財団法人札幌信用金庫社会福祉基金（理事長 吉本淳一 様）から、活動資金として3万円のご寄付をいただきました。

これは、地域の社会福祉向上を目的として同財団から福祉団体等へ助成されているもので、山鼻地区社会福祉協議会が毎年交付を受け、貴重な財源とさせていただいているものです。

当日は、札幌信用金庫山鼻中央支店の齊藤支店長から山鼻地区社協の阿部会長が寄付金の贈呈を受け、山鼻地区の福祉活動の概況説明とご寄付へのお礼を申し上げます。

齊藤支店長からは、札幌信用金庫が小樽信金及び北海信金と合併し、1月から「北海道信用金庫」となりますが、「さっしん」誕生の地である山鼻地区の福祉活動に対しては、今後もできる限り応援したいとお話をいただきました。



子育てサロン

子育てサロンは、乳幼児の親子が自由に集え、子育て中の皆さんといろいろな世代の地域の方々が、楽しく交流できる場です。

参加は無料。事前の申し込みも不要です。どうぞお気軽にお越しください。

なお、駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用願います。

<写真は、平成29年12月に山鼻会館で行われたサロンの状況です。>



山鼻ふれあい子育てサロン

<会場>山鼻会館

(南23西10)

<日時>原則毎月第3木曜日

10:00~11:30

子育てサロンきらきら★ふしみ

<会場>伏見小学校内ミニ児童会館

(南18西15)

<日時>原則毎月第3木曜日

9:45~11:15

「特殊詐欺」って、いろいろな手口があります！！ 気をつけて！！

◆オレオレ詐欺

電話がかかってきて、息子や孫を装って、「会社のお金を無くした。会社をクビになる！今すぐお金が必要だ。少しでもいいからお金を貸してくれ。」などと言われ、慌てて犯人に言われた口座に現金を振り込んだり、自宅に来た男に金を渡してしまうという手口。

◆架空請求(別名:支払え詐欺)

携帯電話等に「サイトの料金が未納です。このままだと裁判になります」などというメールが届き、心配になって電話をかけると「裁判を取り下げるためにお金を払ってください」などと言ってお金をだましとられる手口。

◆還付金(別名:返します詐欺)

市役所や税務署の職員のふりをした犯人から「払いすぎた医療費や税金がある。お金が返ってくるので、キャッシュカードを持ってATMに行ってください」という電話が来て、ATMに行った後、犯人と携帯電話で話しながらATMにお金を振り込んでもらうつもりが、いつのまにか犯人の口座にお金を振り込む手続きをさせられるという手口。

ほかにも金融機関職員や警官を名乗り、キャッシュカードを預けさせるなど、様々な手口が！！

この冬は、とても寒い日が多かったように思いますが、春は着実にやってきます。もうすぐ雪解けが進み、外出や戸外での活動も心地よくなってきますね。でも朝夕は、まだまだ寒いので、どうぞ体調を崩さずにお過ごしください。

(永喜多 宗雄)